

□ ■ タイ企業インタビュー ■ □

～日系企業との取引に関心のあるタイ現地企業をご紹介します～

Thai Food Processors' Association

タイ加工食品製造業者協会



Tust Thangsombat 氏

President

■ 加工食品製造業者協会についてご紹介ください

加工食品製造業者協会は、設立してから53年になります。当初は、缶詰食品関連業者の協会という位置づけで設立されましたが、その後、食品のグループが増え、現在は5つのグループ（パイナップル、野菜や果物、スイートコーン、ツナ・魚介類の缶詰、そして調味料やインスタント食品）で、それぞれを取り扱う製造業者や商社を主要会員として構成されており、会員数は230社程になります。

上記5つのグループの輸出額は1,650.89億バーツにもなります。現在、5つの食品グループの中

で海外に輸出している商品は、ツナ缶、スイートコーン、そしてパイナップルをはじめとする果物と野菜の缶詰やジュースです。近年では、特にツナ関連業者の近年の成長が著しく、要因として、多くの会員企業がツナを材料としたペットフードのビジネスに参入していることが挙げられます。2020年にはペットフードの輸出国として第4位の成績を残しており、同分野での成長率は年間30%程と、近くトップ3にラインクインすることが期待されています。

上記の商品に加えて、業界の成長のために、プラントベース肉、プラントベースタンパク質、代替プロテインや、昆虫由来プロテインなど、未来食品の分野に広く展開する必要があると考えています。協会としても加工食品業界の更なる発展に向けて尽力しています。

■ 現在タイ加工食品産業が抱える課題は何でしょうか？



欧米（アメリカ、イギリスなど）の取引先国が、世界的なトレンドである地球温暖化対策に力を入れているように、タイにおいても二酸化炭素の排出量削減に努力しております。特に食品業界では、地球温暖化により農作物にも影響が大きく出ているため、政府の二酸化炭素排出量削減方針に沿って、環境にやさしいビジネスを作らないといけない時代だと考えています。

タイで最近発生した自然災害の例を挙げますと、タイ南部において連続的に雨が降り続いたことにより、隣国のマレーシアにも被害を及ぼす大規模な洪水が発生しました。これにより、住宅への被害の他、農作物も大きな被害が出ました。今後も、地球温暖化による気候が変動の中、安定した農作物栽培のために、スマートファームやグリーンハウスを活用した栽培システムを構築することが課題であると考えています。

■ タイの加工食品の輸出量は世界で 11 位ですが、今後トップ 10 入りを目指すにあたり、方針を教えてください。

現在の加工食品輸出国のトップ 10 には、ブラジルやアルゼンチン、アメリカなど、広い農地を持ち、加工食品原料の生産量が多い国々がラインアップしています。農地と生産量で比較をすると、タイは圧倒的に劣っているため、加工食品の輸出国の世界 10 位入りを達成するには戦略が必要となります。今後、タイでは以下のような食品の開発に力を入れていく方針です。



① オーガニック食品

オーガニック食品については、タイでも 20 年程前からビジネスを展開していますが、オーガニック食品の栽培には広い農地が必要なため、今のところ期待されていたほど成長していません。

② 健康食品

③ 病人向けの食品

②、③について、タイは高齢化社会に入っているのに加えて、若年層のヘルスケアへの関心も高まっています。そのため、健康食品や病人、高齢者向けの食品は、今後更に需要が増加していくと考えられています。

④ 未来食品 (Future Food)

未来食品は、今後5～10年の間に力を入れていきたい分野です。現在、タイ大手のCPグループのプラントベースミートをはじめ、タイ食品関連大手が未来食品の開発に力を入れており、大きな成長が期待されています。

タイの食品産業が成長していくには、大量生産には道はなく、また環境や気候の変化や農地の狭さなど生産面での制限を克服するため、未来食品の開発や生産方法の改善など、食品の付加価値を高めるという方針を固めています。

■タイ企業は日本が持つ最新技術の導入や、日本企業との協業に関心がありますか？

今までにも、日本の優秀な企業と合弁企業を設立したタイの鶏肉、海鮮食品加工会社は多数あります。しかし、多くの合弁企業は、昔ながらの食品加工業です。近年は、最先端の技術を活かし、未来食品の開発に力を入れている日本企業がたくさんあります。今後、日本企業が持つ最新のノウハウを吸収し、タイの食品加工業界の生産性、市場拡大に貢献することを目的に、タイの中小企業と日本の中小企業間での取り組みや、日本の中小企業とタイの大手企業との協業などといった動きが活発化する可能性は十分であると我々は考えています。

その一方で、タイの食品加工業界で導入されている設備に注目すると、年々中国製のものがそのシェアを伸ばしています。主な理由として、日本製の機械と同じ性能の中国製の機械が、日本製のものより30%程安く購入可能だからです。そのため、30～40年前の食品加工機械の市場と比較すると、圧倒的に日本製の機械が売れなくなってきているのが現状です。

食品加工機械は、既に真新しい技術ではなく、使い古されてきた技術であることは事実です。しかし、今までにない食品の加工機械であれば、日本製の機械にもまだ可能性があります。過去の例でいえば、日本発祥の「カニカマ」は現在タイの現地スーパーでも販売され、広く親しまれていますが、数十年前に「カニカマ」が市場に出始めた当初は、日本独自の「カニカマの製造機械」がタイで非常に売れていました。他の国には「カニカマを作る機械」がなかったため、タイでカニカマを生産したければ、日本から輸入するしかなかったからです。そういった独自性を持つ機械が日本から出てくれば、同じように大きな需要が生まれると思います。

2022年3月

また、加工技術の面ですが、他の国と比べると日本の加工技術は優れているため、CPグループのようなタイの大手企業と共同開発したり、もしくは製品の販売代理店となってもらえる可能性もあります。ただ、食品加工業界においてCPグループのような大手企業は少なく、その多くは中小企業です。そのため、タイ企業とビジネスに取り組みたいければ、場合によっては日本企業からタイ企業へのリーシングなど、資金面でのサポートが必要だと私達は考えています。

■タイ企業が日本、または世界の食品加工関連の中小企業と共同開発を行った事例はありますか？

タイの大手企業で例を上げると、海外の中小企業と合併し、「プラントベース肉」を開発に取り組む事例が多数あります。また、中小企業であれば、タイの政府機関「Food Innopolis」などから未来食品開発支援を受けることで、海外の企業と製品開発に取り組むことができた事例もあります。今後こういった事例が増えていくと思いますし、タイの食品加工業界の成長には海外との協業が必要不可欠であると考えています。

※「Food Innopolis」についてはこちら（英語サイト）：<https://foodinnopolis.or.th/en/home>



【協会概要】

企業名： Thai Food Processors' Association

住所： 170/21-22, 9th Floor, OceanTower 1 Bldg., New Ratchadapisek Rd., Klongtoey, Bangkok, 10110, Thailand.

Tel： (+66) 2 261 2684-5

Email： thaifood@thaifood.org

URL (英語)： <https://thaifood.org/main/>

□ ■ タイの軍隊事情 ■ □



こんにちは、島根・ビジネスサポート・オフィスの八木です。

ご存知の方も多いと思いますが、タイは2014年に起きたクーデター以来、軍事政権が敷かれています。このクーデター前から、タイの政治と軍隊の関係は非常に密接です。

この度、ロシアによるウクライナ進攻の不条理を目の当たりにし、この平和且つ微笑みの仏教国タイ王国が誇るタイ王国軍（Royal Thai Armed Forces）の理解を深める必要性を感じました。今回は、「タイの軍隊」についてご紹介いたします。

【タイ王国軍の概要】

タイ王国軍の目標は、「国家、宗教、国王及び民主主義」というタイ王国の基本を守ることであり、これはタイの憲法にも示されています。軍の最高司令官は国王が兼務することとなり、これも憲法で明確に規定されています。最高司令官の国王の下に首相が位置し、国王の指示を受けて、内閣と国家政策会議の承認に基づき軍事政策を発する、という構造になっています。

2022年3月

更にその下に実務を取り仕切る軍事行政期間として国防省が設置されています。この国防省のトップである国防大臣は文民に限定されていますが、タイでは退役軍人も文民とされるため、退役軍人が国防大臣に任命されるかたちになっています。

国防省の内部は大きく2つに分けることができます。次官室は財政、軍事裁判、近衛兵などの統括が行われており、もう1つのタイ王国軍最高司令部が、人事・情報・教育・作戦など実務を担っています。タイの3軍である陸軍・海軍・空軍は最高司令部の下位組織になります。なお、有事において実際に力を持つのは最高司令部ではなく、3軍の司令部で、そこが指揮命令権を持ちますが、軍の規模から陸軍の力が圧倒的に強いのが現状です。

【タイの徴兵制】

韓国やシンガポールなど兵役制度が導入されている国では、兵役、軍事訓練を受けることは国民男性全員の義務とされていますが、タイでは徴兵制が敷かれています。毎年8～10万人の軍人募集が行われるのに対し、希望者は1～5万人と不足してしまうため、この不足人員については、くじ引きによって入隊するか否かが決められます。なお、この徴兵制では女性は対象外ですが、18歳以上であれば訓練を受けることが可能です。



このくじは赤と黒に別れており、黒は徴兵免除、赤は入隊で、赤のくじには更にどの軍に入隊するかまで記載されています。3軍の中でも、海軍の訓練の厳しさは有名で、海軍入隊のくじを引き、その場で気絶した人もいられる程だそうです。ちなみに、このくじ引きの様子は、タイ全土でテレビ放映されており、毎年の恒例行事になっています。

なお、この徴兵検査の際に逃げるか、受検を拒否した場合は、10年以下の懲役に加えて軍および警察公務員への就職が生涯不可能になるという罰則が設けられています。

【タイ王国軍の軍事力】

2022年にGlobal Firepowerが軍事力、財政、兵站、地理など50項目を超える要因を加味した軍事力指数を元に算出した、世界軍事力ランキングによると、タイは世界29位、日本は5位に位置しています。因みに日本以外のトップ5は、1位アメリカ、2位ロシア、3位中国、4位インドという結果でした。東南アジアで見るとタイは、インドネシア（15位）、ベトナム（28位）に次ぐ第3位の軍事力を持つ国です。

不足している人員を徴兵制度で補っているタイ王国軍ですが、実際の軍の規模はどの程度のものなのか、軍隊ではありませんが、日本の自衛隊と数字で比較してみましょう。

| | 有効総動員兵力 | 海軍の航空母艦 | 潜水艦 | 空軍の戦闘機 | 陸軍の戦車 |
|----|---------|---------|-----|--------|-------|
| タイ | 31万人 | 1隻 | なし | 551機 | 722台 |
| 日本 | 25万人 | 4隻 | 17隻 | 1591機 | 678台 |

出典：<https://www.globalfirepower.com/countries-listing.php>

【最後に】

タイの隣国であるミャンマーは英国に、ラオス、カンボジア、ベトナムはフランスに植民地化されましたが、タイは、1768年にミャンマー軍をアユタヤーから駆逐して以来、植民地化されることがなく、タイ本土での戦闘もない平和な国です。第二次世界大戦以降は、短期間の国境紛争と深南部三県（パタニー、ヤラー、ナラテワート）のイスラム勢力（BRN）との紛争のみで、タイ王国軍は本格的な戦闘に従軍したことはありませんし、今後も決して起こらないことを心から願うばかりです。

□ ■ タイの電子運転免許証 ■ □

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスのタイ人スタッフ、ニンです。

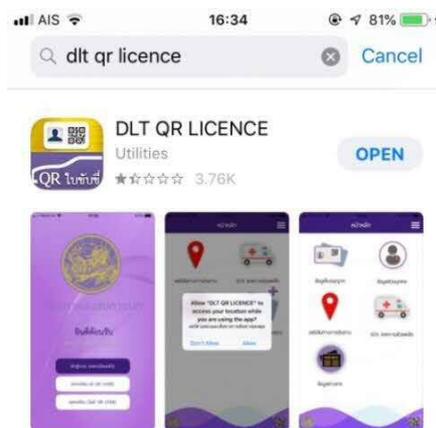
皆さん、タイでは既に電子運転免許証が導入されていることをご存知でしょうか。

最近、タイのネット上では「電子運転免許証にメリットがあるか？」ということが話題に上がりました。日本ではまだ導入されていないこの電子運転免許証の制度ですが、実際に利用可能となることでどのようなメリットが得られるのか。今回はタイの電子運転免許証についてご紹介したいと思います。

タイでは、2019年1月より導入された「DLT QR LICENCE」という電子運転免許証アプリに登録することで、運転免許証の携帯が不要となりました。アプリ内にはドライバーの免許証の情報だけでなく、保険や指定医療機関などの情報を管理する機能もあります。また、登録の方法も、以下でご紹介する通りとても簡単です。

【DLT QR LICENCE（電子運転免許証）アプリの登録方法】

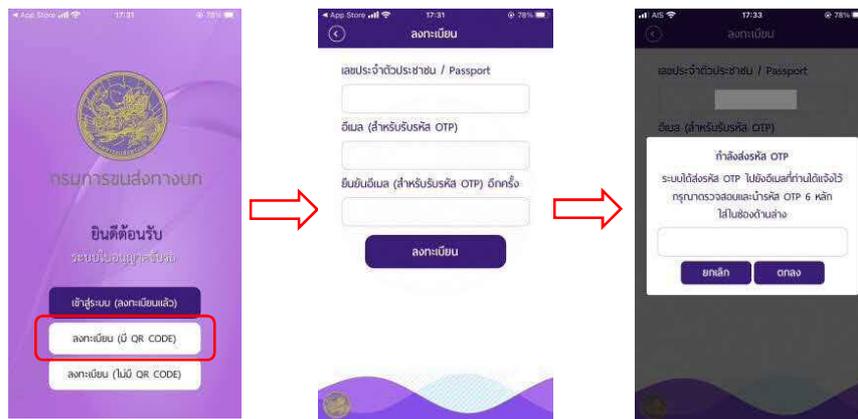
1. 電子運転免許証を利用するためには、まず iOS 又は Android 端末より「DLT QR LICENCE」アプリのインストールをします。



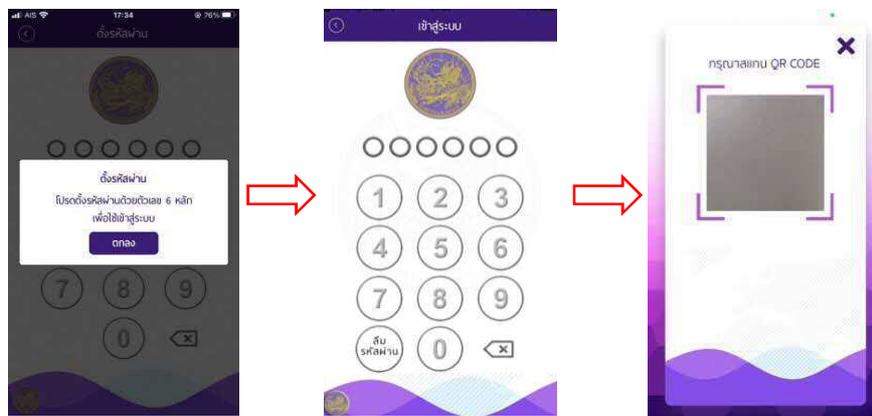
2. インストールが終了したらアプリを開きます。アプリを開くと早速タイ語が出てきますが、紫のボックスには「Log In」、白いボックスには「Register」のボタンがあります。Register のボタンは「QR コードあり」、

2022年3月

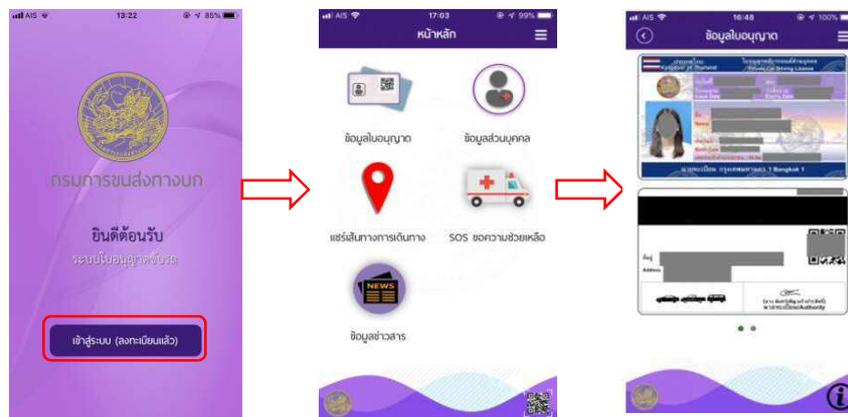
「QRコードなし」となっているので、裏面にQRコードがある運転免許証は、上から2番目の「QRコードあり」白いボックスから登録できます。パスポート番号、メールアドレスを入力し、次へ進みます。次に、登録したメールアドレスに認証番号（OTP）が配信されるので送られてきた番号を入力します。



3. 続いて、アプリ用の6桁の数字パスワードの設定を行います。パスワードを設定するとカメラへのアクセス許可画面が表示されるので、許可して免許証裏面のQRコードを読み取ります。QRコードを読み取ると登録手続きは完了です。最後に登録完了画面に移動します。



4. 登録完了画面に移動すると紫のボタンを押して設定したパスワードでログインします。ログインするとアプリの「ライセンス」、「個人情報」、「位置情報」、「救助依頼」のメニュー画面が表示されます。「ライセンス」を押せば、所持している運転免許の表面と裏面の画像が出てきます。また、表面又は裏面をクリックすると、画像は拡大されます。



「QRコードなし」で登録の場合はアプリの機能へのアクセス制限があります。「QRコードなし」で登録する場合、アプリ上の「ライセンス」に運転免許証の画像を表示できないので、登録していても実物の運転免許証の携帯が必要となります。免許の不携帯を希望するのであれば、まずは、所有している運転免許証を「QRコードあり」のものに換えなければなりません。

また、自動車やバイクなど複数の運転免許証を持っている方は、どれか1枚を登録すれば所持している全ての運転免許証の情報をアプリ内で確認することができます。

【免許証電子化のメリットは?】

アプリが導入された当初は、個人情報の流出などセキュリティの面で、利用上の安全性を不安視する声が多くありました。且つ、アプリについて警察官に周知されておらず現場の混乱を招いたため、アプリの普及が想定通りに進まない状態にありましたが、利用者の安心のためにアプリの利用に関する道路交通法が改正され、2019年9月より施行されることとなりました。

ドライバーにとっての電子運転免許証のメリットは、冒頭で述べたようにデジタル化によって実物の運転免許証の携帯が不要になったことで、盗難、紛失の不安が解消され、利便性が大幅に向上したことです。

また、アプリの機能の中には運転免許証の有効期限を通知したり、事故などの緊急事態の際には、位置情報を発信したり、本人の血液型やアレルギーといった重要な医療情報も管理できるので、単に免許が携帯不要になったこと以上の恩恵があります。

さらに、特に首都バンコクでは交通渋滞が慢性的な問題になっており、その改善のためにタイ陸上運輸局および国家警察庁は、長きに渡り、様々な方法でドライバーの道路管理システム開発への努力がなされています。

2022年3月

ただ、各機関が所有するデータを個別に管理しているので、その点に大きな改善の余地がありました。運転免許証電子化の、情報を管理する側のメリットとしては、関連機関もドライバーについての情報をQRコードで読み取ることができるので、ドライバー情報の管理にかかる作業が大幅に削減し、今後のタイ交通状況の改善の足がかりになるのではないかと、期待されています。

【最後に】

日本でも運転免許証の電子化は、免許証とマイナンバーカードの統合と併せて行政手続きのデジタル化として協議が進められているようですが、導入時期は2026年度を予定しているとのこと、まだまだ先の話になりそうです。

タイでは、前述の交通渋滞の他にも、交通事故の多さも問題になっており、「国・地域別交通事故死亡者数ランキング」（2016年のデータを元に2018年にWHOが発表）では、世界第9位、東南アジアの中では第1位です。電子免許証の導入により、管理が簡易化・一元化されることにより、利便性の向上だけでなく、タイの慢性的な道路問題解決のきっかけになることが望まれます。

出典：タイ陸上運輸局（DLT）のサイト、https://www.dlt.go.th/th/public-news/view.php?_did=2217

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

| |
|--|
| 担当 ; 神谷 靖子 Yasuko Kamiya |
| Address : 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110 |
| Tel : +66-(0)-2-261-1058 |
| Mobile : +66-(0)-89-200-7763 |
| Mail : shimane-bizsup@aapth.com |

➤ タイ経済指標

| 項目 | 単位 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|--------------------|-----------|-----------|----------|-------------|-----------------|
| GDP 成長率 | 前年比 (%) | 2.4 | -6.2 | 1.8 | 1.8 (21年) |
| 人口* | 千人 | 68,021 | 68,152 | 68,161 (1月) | 68,161 (21年1月) |
| 労働者の数* | 千人 | 38,207 | 39,451 | 38,631 | 38,631 (21年) |
| 失業率** | % | 0.99 | 1.62 | 1.94 | 1.94 (21年) |
| 最低賃金* | バンコク | 325 | 331 | 331 | 331 |
| | チョンブリー | 330 | 336 | 336 | 336 |
| | アユタヤー | 320 | 325 | 325 | 325 |
| | ラヨン | 330 | 335 | 335 | 335 |
| 賃金：全国製造業の平均 | パーツ | 13,131 | 13,562 | 13,506 | 13,506 (21年) |
| インフレ率** | 前年比 (%) | 0.71 | -0.84 | 1.24 | 4.26 (2月) |
| 中央銀行政策金利* | % | 1.25 | 0.50 | 0.50 | 0.50 (3月) |
| 普通貯金率** | % | 0.47 | 0.31 | 0.25 | 0.25 (2月) |
| ローン金利(MLR) ** | % | 6.29 | 5.60 | 5.42 | 5.42 (2月) |
| SET 指数* | 1975年：100 | 1,579.84 | 1,449.35 | 1,657.62 | 1695.24 (3月) |
| パーツ/100円** | パーツ | 28.48 | 29.33 | 29.15 | 28.47 (3月) |
| パーツ/米ドル** | パーツ | 31.05 | 31.29 | 31.98 | 33.05 (3月) |
| 円/米ドル** | 円 | 109 | 106.8 | 109.8 | 116.2 (3月) |
| 車販売台数 (1月からの累計) | 台数 | 1,019,602 | 779,857 | 736,716 | 155,785 (2月) |
| BOI 認可プロジェクト | 件数 | 1,500 | 1,501 | 1,572 | 1,572 (21年) |
| BOI 認可プロジェクト金額 | 10億パーツ | 447.36 | 361.41 | 511.9 | 511.9 (21年) |

*期末、**平均